



TCA

— NEWS —

Vol.104 2月号

発行

富山市民国際交流協会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号

CiCビル3F富山市国際交流センター内

TEL(076)444-0642 FAX(076)444-0643

発行責任者 広報・組織強化委員会



11月13日(日)～11月18日(金) CiC1F・3F ※11月15日(火)は休館日

今年、小規模ながら3年ぶりに開催し、各国紹介・団体紹介ブースなどの交流型のプログラムも再開しました。

初日は、オープニングとして二胡演奏からはじまり、旅館の宿主でもあり、地域活性化に向けて精力的に活動されているタイラー・リンチさんにお話をお聞きしました。共催団体の一つであるJICA北陸の30周年記念映画上映など様々なプログラムがありました。

日本の部屋では書道体験、日本の遊びや富山弁を体験するコーナーがありました。大人も子供も楽しそうな様子に、対面での交流の大切さを実感しました。

月曜日からは、さまざまな講座が開催され、学び多き1週間となりました。

◆国際交流フェスティバルウィークプログラム◆

11月13日(日)

- オープニング 二胡演奏
- 講演 外国人が求めるおもてなし
～アフターコロナ版～
- JICA北陸設立30周年記念映画上映会 &
JICA海外協力隊inアフリカ体験談
- サンクスギビング クラフト作り/
二胡演奏/ベトナムランタン作り/
日本文化体験(書道、日本の遊び、富山弁 他)
- 各国紹介ブース/団体紹介ブース

11月14日(月) 英語講演会
「映画業界や英語指導経験について」

11月16日(水) ラテンアメリカを楽しもう！
～JICA海外協力隊が見た世界～

11月17日(木) 韓国水原市オンライン交流

11月18日(金) 中国の紹介「中国事情」

11月13日(日) <展示>
JICA海外協力隊写真展～世界の一コマ～
11月18日(金) 富山県国際交流員出身国 紹介パネル展

共催 (公財) とやま国際センター 富山市民国際交流協会 (独) 国際協力機構北陸センター (JICA北陸)

記念講演 外国人が求めるおもてなし～アフターコロナ版～



講師 タイラー・リンチさん 長野/戸倉上山田温泉 旅館「亀清」宿主

近年の外国人観光客（欧米人の場合）が求めるものは、神社・仏閣よりも馴染みのあるところを好む。例えば、善光寺より野猿公園、忍者村よりワイナリー等が人気を博す。日常の日本が知りたいという欲求も強く、例えばサイクリングツアーの途中で地元の人たちと一緒に農作業をする交流が喜ばれたし、ゲートボールをしている年配の方たちと一緒にプレーをしたことがあった。つまり観光客だけでなく地元の人々も楽しめるのがよいのだ。

また予約から実際の旅行の様々な段階までの多言語化もおもてなしである。特にコロナ禍の現在では次のような旅が好まれる。

- 1 電車の混み合うところを防ぐためにプライベート空間であるレンタカーを好む。
- 2 大浴場の他に貸し切りの個人風呂。
(タトゥー等に配慮。)
- 3 大勢の人がいる大きな会場より個室で食べるのを好む。
- 4 紙のクーポン券やパンフレットによらないオンラインでの宣伝や決済。
- 5 環境に配慮した旅、つまりSDGsがキーワード。
- 6 ハラル、アレルギー、菜食主義などに配慮した食事の提供。
- 7 LGBTQに配慮した対応。
- 8 インスタグラムに配慮した写真撮影の場所・時間の情報提供。
- 9 タトゥーに関する浴場の規則の緩和。
- 10 浴衣の色を男女固定せず様々な選択肢を提供する。
- 11 入口に「英語表記メニューあり」の案内があると入りやすい。

JICA北陸設立30周年記念映画上映会 & JICA海外協力隊inアフリカ体験談

映画「おじいさんと草原の小学校」

体験談 コーディネーター 松山 優子さん(JICA富山デスク国際協力推進員)
パネリスト 吉田 詩甫子さん(カメルーン)

映画「おじいさんと草原の小学校」の舞台はケニア。主人公はマルゲ、84歳。かつて、英国からの独立を求めて戦った闘士。初等教育が無償化され「文字を読みたい」一心で小学校に通い始める。自分でリメイクした制服の半ズボンを履き、ひ孫ほどの同級生たちと、ぎゅうぎゅう詰めで座りながら、学べる喜びに溢れるマルゲの笑顔。文字を読みたくて学び始めた84歳は、やがて獣医になりたいという希望を膨らませる。学びたい思いを叶えてくれたのは校長のジェーン先生。様々な困難に直面しながらも彼を支え続けた。

心動かされる場面は沢山あった。しかし、時には目をそむけたくくなるようなケニアの歴史的背景も詰め込まれている。それはマルゲの通学に反対する周囲の人々や政府関係者の言動、マルゲ自身の独立闘争時の記憶の中に見え隠れする。民族間抗争、偏見、独立闘争の代償となった自身の投獄や家族の犠牲等だ。映画のタイトルから、ほのぼのとした内容を連想していたが、ある意味衝撃的だった。

映画を見て、現実の重さを感じた人がいるかもしれない。逆にもっと知りたい、何か自分にできないかという思いを強くした人、自分自身の環境と比べて何らかの思いを抱いた人もいるだろう。因みに映画の製作は英国である。深い意味合いを感じる。すべてが学びだと思う。

映画に先立ってカメルーンの教育分野で活動された元JICA海外協力隊員の方からお話を伺った。カメルーンは、アフリカの縮図と言われる国だそうだ。アフリカには、映画の舞台・ケニアも含めて54カ国が存在する。各々が独自の歴史的・文化的背景を持ち、気候風土も異なる。そんな多様な要素がぎゅっと凝縮された国。活動を通じて感じたこととして「子供の教育に関わる活動に対し、周囲の大人の理解や協力が得やすかった」こと、「大人も子供も皆自分のことが大好き(自己肯定感が強い)」という印象を挙げられた。それが、教育によってもたらされた思考なのか、自然に育まれた気質なのかはさておき、学びとは知識習得だけを指すものではないということを再認識した。



ベトナムランタン作り

国際交流フェスティバルウィークでは、昨年度も大変好評であったベトナムランタン作りを行いました。富山県ベトナム語国際交流員のグエン・ティン・タオさんが講師を務め、ベトナムにランタンが伝わったことの説明を交えながら、作り方の紹介をしました。

色画用紙を使って手軽にランタンを作ることができ、多くの参加者にベトナムを身近に感じてもらえるよいきっかけとなりました。



サンクスギビングクラフト作り

サンクスギビングのシーズンに合わせ、クラフト作りを行いました。富山県英語国際交流員のアリス・リースさん(アメリカ出身)が講師を務め、サンクスギビングの説明を交えながら、作り方の紹介をしました。

手の平の形に合わせて色画用紙を切り取って七面鳥を作り、楽しみながらサンクスギビングに親しむ大変貴重な機会となりました。



《各国紹介ブース》

イタリア、インド、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、ジャマイカ、セルビア、チェコ、中国、ブラジル、ベトナム、マレーシア、モザンビーク、日本

《国際交流・協力団体ブース》

アジア子どもの夢、国際ソロプチミスト富山、富山県カンボジア王国親善協会、富山県日韓親善協会、富山県日台親善協会、富山・中国ネットワーク、富山ネパール文化交流協会、Filipino Toyama Community、(公財)とやま国際センター

私は、2019年に富山ガラス造形研究所准教授として来日し、ガラスアートを教えています。

友人に富山市民国際交流協会（TCA）で日本語を学習することができると聞き、受講することにしました。

TCAでは、多くの生活情報や文化プログラムがあり、その中の一つが、国際交流フェスティバルの各国紹介ブースです。自分の出身国や文化を紹介する機会があり、今回お誘いを受け、参加しました。

チェコの歴史、習慣、音楽、スポーツ、科学、発明、伝統、旅行、料理、飲み物などについて、チラシ、本や写真で紹介し、チェコセンター東京から取り寄せた人気観光地やイベントのチラシや地図も配布しました。また、チェコの有名なお酒や飲み物も実際に飾りました。

多くの方が訪ねてくださり、日本人の友人に詳細は通訳をお願いしながら、いろいろなお話をすることができました。このイベントに、多くの方々が興味や好奇心を持って来ておられたのは大きな驚きでした。会場はとてもしラックスした雰囲気、活気があり、友好的で、いろいろな交流することができました。日本人の方たち、いろいろな国の方たちとの新しい出会いもたくさんあり、文化交流のきっかけとなったと思います。

このようなイベントを開催することは、素晴らしいアイデアだと思います。人と人がつながり、新しい関係を築き、異なる文化の理解を深めることは、発展した社会の目指すべきことであります。

TCAは外国人にとって日本人のライフスタイル、文化等の情報を得られる貴重な場所です。自国を紹介する機会を得たことをとても嬉しく、誇りに思うと同時に、多くの興味深い人々に会うことができたへん満足していますし、今回このイベントで貢献できたことをうれしく思います。



外国語ボランティア養成講座後期～とやまの生活編～ とやま市民交流館・当センター

12月10日(土) 参加者40名

「節電のポイント・節電キャンペーンプログラムと電気の安全な使い方」

講師 北陸電力(株) 富山支店

総務部業務・地域チーム特任副課長(広報担当) 清水 健子さん

今回の講座は、現在各家庭で切実な問題となっている「節電」をテーマに、第一部では①電気料金の改定について、②地域温暖化の仕組み、③家庭でできる節電・省エネ対策、④電気製品を安全に使うため、についてのお話をいただきました。

①については北陸電力の電源の多くを占める石炭価格がウクライナ紛争や円安の影響で5倍になり、また当初予定していた原子力発電の再開が進まないことから来年4月には大幅に値上げせざるを得ないことが説明されました。また③では家庭における節電対策として電気使用料が一番多いエアコンで、これから冬を迎え室内の温度を20～22℃に抑えることが望まれるということでした。

第二部では、英語(初級・中級)中国語、韓国語のグループに分かれ、富山に住む外国人に対してどのように節電や、安全性を説明するかの講習が行われました。英語のグループではお風呂やエコキュートなど外国ではなじみのない言葉の英訳に苦労しながらも、外国人に理解してもらいました。

効果的で安全な電気の使用方法は、富山に住む外国人の皆さんにも関心のあるトピックスで、今回の講習は大変有意義なものであったと思われます。

エアコン

- 室温は、冬は20℃以下、夏は28℃以上を目安に。

POINT! 1℃の調整で約10%の省エネ効果が見込めます!^{※1}

※室温は目安です。体調や外気温等を考慮し、無理のない範囲で設定してください。

- フィルターのこまめなお掃除で省エネ効率アップ。
- 室外機のまわりにはものを置かないようにしましょう。
- 扇風機やサーキュレーターとの併用で空気を循環させると冷暖房効果が高まります。

北陸電力(株)Webサイトより

富山市総合防災訓練に参加! 鵜坂小学校体育館

10月8日(土) 参加者 日本人21名 外国人6名

総合防災訓練に参加することで、他機関との連携した練習ができ、参加者は様々な機関がどのような対策をとっているのか知る良い機会となる。他団体の方たちにも日本人だけでなく外国人も避難してくることを知ってもらう機会でもある。

訓練内容としては、まず、医師会や富山市保健所と連携し、避難所内でトリアージ後に病気や負傷している外国人住民と医師や保健師との会話の通訳訓練を行った。その後、会場内で行われている各機関の訓練を見学、段ボールベッドの組み立て体験や、非常食の試食をした。参加した外国人に、避難所マップや避難マニュアルを使って各言語で説明をし、防災について理解を深めてもらった。最後に、災害対策本部からの情報をやさしい日本語、英語、中国語、韓国語に訳して避難所に掲示する訓練を行った。防災訓練は休日の早朝の実施であるが、防災の知識を深めるために一人でも多くの外国人が参加するように工夫が必要である。



情報翻訳訓練



通訳訓練



災害の備えを学ぶ



体験コーナー

災害時外国人支援語学ボランティア研修会

9月10日(土) 参加者25名

講演 「災害時の外国人支援について考える～大阪府北部地震の事例を中心に」

講師 岩城 あすか さん

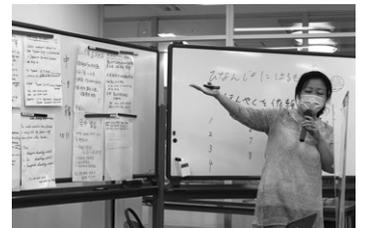
(一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー

箕面市立多文化交流センター 館長/公益財団法人箕面市国際交流協会 事務局次長

2018年6月18日、箕面市で地震が起きた。箕面市国際交流協会では、阪神淡路大震災、東日本大震災などの教訓を基に、多言語災害支援訓練を以前から行ってきたため、地震が起きた当日の朝9時半には、もうすでに避難所の巡回を始めていた。避難所には、運営スタッフとして市職員以外にボランティアが数名いたが、外国人避難者が大多数を占めているのに驚いた。外国人避難者の中から通訳リーダーを決め、何か問題があると運営スタッフに頼るのではなく、避難者自身が解決に向けて動くように指示した。また、市からの情報の伝わり方が遅く、むしろ口コミで多く伝わるのがわかった。

避難所には外国人向けの情報が少なく、聞きなれない災害用語が溢れている。しかもあいまいな表現で分かりにくい。避難所に来る外国人は借家住まいで、そのうち80%が一人暮らしだった。有り余る情報のなかでどれが正しいのか、どれが一番大事なのかがわからなくて困るという人が多かった。各国の文化的背景も考えながら、伝える情報を絞って、やさしい日本語で知らせ、どこに行けばどんな必要な情報が手に入るのかを、分かりやすく提示することが重要である。

後半は英語、中国語、韓国語班に分かれ、多くの情報の中から優先順位をつけ、やさしい日本語に直してからの翻訳訓練を行った。



中国語に翻訳

♪9月12日(月)

トウモロコシのお菓子と言えば？

講師の白川先生が講座のたびに、ブラジルの料理やお菓子を振舞って下さることは何度も書いた。殆どが手作りで、本場のレシピを糖分油分控えめに健康的にアレンジして下さるのが嬉しい。先般たまたまテレビで、ブラジルのCurau(クラウ)というトウモロコシのプリンを見たので、先生にリクエストしたら、さっそく作ってきて下さった。大事に持ち帰って家でいただいた。コーンポタージュスープをうんと濃くして甘味とシナモンを加えて冷やした味と言えば伝わるだろうか。私はポップコーンしか思い浮かばないが、ブラジルにはクラウ以外にも、トウモロコシのお菓子がいろいろあるようだ。



♪10月24日(月)

サンバを生きるって？

9月は、Homem da Montanha(直訳：山出しの男)/Benito Di Paula(ベニート・ヂ・パウラ)を歌った。山間部から都会に出た若者が故郷を想う歌。大雑把な比較だが、千昌夫の「北国の春」が季節感で郷愁を語るのに対して、ブラジルの曲は、幼い頃の家族との暮らしの思い出でそれを表現している。しかし、どちらも古里に帰りたい気持ちで溢れているのは一緒だ。10月の曲はPôxa(ねえ)/Gilson de Sousa(ジウソン・ヂ・ソウザ)。カーニバルに向けてサンバを練習するチームの中での恋愛を歌っている。サンバは人生そのもの。人々はサンバを生きている。相当するものが日本にあるだろうか。



♪12月12日(月)

家でもサンバを練習しよう!?

2023年の国際交流フェスティバルで歌う6曲が決まった。教室での練習は今日を含めてあと9回しかない。それだけではきっと間に合わないので、家で動画を見て練習しようとする。曲の途中にしょっちゅう広告が挟まり、気分がそがれる。再生を繰り返せば繰り返すほど、広告が増えるような気がするのだが、悲しいことにIT音痴(?)ゆえに、うまい抜け道も見つけれず、時間がたつほど不機嫌になる。やれやれ。今年の大河ドラマは「どうする家康」だが、「どうする家練」の一年になりそうだ。

委員会報告

総務企画

総務企画委員会「国際交流TCAカレッジ」・姉妹友好都市委員会「特別講座」

姉妹友好都市

ラテンアメリカを楽しもう!! ～JICA海外協力隊が見た世界～

11月16日(水) 参加者 25名

コーディネーター 松山 優子さん(JICA 富山デスク 国際協力推進員)

パネリスト 矢後 千紘さん(ホンジュラス) 西野 睦子さん(エクアドル)

安藤 登日子さん(チリ)

“ラテンアメリカ”と一括りにされがちなこの地域、一様ではないということ、まずは冒頭のクイズで楽しく検証。一部ご紹介すると、メキシコ、エクアドル、ホンジュラスには「死者の日^{*1}」があるが、チリにはない。電話に出る時の第一声は、メキシコ以外の国では「Helloアロー」といった具合。資料の地図で各国の位置を確認しながら「死者の日」の北限、「アロー」の南限はどこだろう？という新たな関心が芽生えた。

パネルトークでは、隊員としての活動はもちろん、日常生活の様子等も生き生きと伝えられた。墓地に大集合してピクニック気分で「死者の日」を過ごす人々、本人主催の誕生日パーティで登場する巨大な

ピニャータ^{*2}、ハンカチを巧みに振りながら踊るダンス・クエカ。協力隊員の皆さんもすっかり現地に溶け込んで楽しそう。

もちろん、「小学校教育」「看護師」「理学療法士」の各分野における本業の活動についても、しっかり伝わった。現地の状況や活動内容が三者三様なのはもちろんだが、共通しているのは、皆さんが自分で仕事を見つけ出しているということ。ラテンアメリカが一括りでは語れないように、活動現場の現状や課題も多様だ。現状を見て課題を分析し、現実的な対応を考え実践することが求められ“無いのなら作ってしまえ”とばかりに「模擬授業や学校訪問」「手書き記録を効率化するためのテンプレート作成」「歩行練習



時の安全性を考慮した車輪付き歩行器」等、日本での経験を活動現場にアジャストさせた工夫を提示されている。それをヒントとして、現地の人々が一層の工夫を加え、新たな展開に繋がっている例も。これぞ持続可能性。タイトル通り、存分に楽しませて頂いた。

*1 現世に戻ってくる死者を迎えて過ごす日。日本のお盆のような位置づけ。

*2 中に、お菓子や物品等が詰まった巨大な人形。天井から吊るしたのを割って、溢れ出た中身を皆で分けあう。

総務企画

国内研修（日帰り）

「**かなざわ国際交流まつり2022に行こう!**」10月9日(日) 参加者 18名

訪問先 **かなざわ国際交流まつり(金沢市庁舎前広場)/ヤマト・糺パーク「百年蔵」/
石川県金沢港大野からくり記念館/石川県銭屋五兵衛記念館**

新型コロナの影響で中止されていた国内研修が、日帰りに形を変えて3年ぶりに開催されました。富山の国際交流フェスティバルに向けて、かなざわ国際交流まつりの見学です。金沢のフェスティバルは各国の紹介というより、料理を通じて国際理解を深めるといった主旨のようで、どのブースも大勢の人で賑わい、ステージでは各国の踊りや音楽が披露されていました。このイベントは、新型コロナウイルス発生後の2020年、21年ともに規模を縮小してではありませんが、中止することなく開催されています。その理由を主催者に伺ったところ



かなざわ国際交流まつり

「金沢は文化を重んじる風土があり、この様な文化交流に対する関心が高かった」からとのことでした。コロナに臆することなく、フェスティバルを継続していくんだという強い意志や気概に心打たれました。

また、金沢国際交流財団で今、最も課題となっていることは「金沢を中心とした石川県では定住する外国人が増えており、これらの人にどのように対応するか」だそうで、富山にも共通することだと思いました。

各国ブースの中でも特に感銘を受けたのはインドです。かつて誰も知り合いのない中でインド料理店をゼロからスタートさせ、その後立ち上げた金沢インド人会は、今ではインド大使が毎年訪れるほどの組織になったとのこと。国際交流は、このような日本に根付いた方たちによるところが大きいと痛感しました。感激のあまり、その方のお母様の書かれた自叙伝「誇れる国インドと日本」を購入し、読んでみることにしました。

昼食は金沢港に近い醤油メーカーの老舗、ヤマト醤油味噌が経営する発酵食美人食堂にて、酵素が活躍している糺を使ったヘルシーな食事をいただき、その後近くの「大野からくり記念館」を訪問しました。金沢が誇る発明家・大野弁吉と発明した装置の数々を、館長さん自ら弁舌巧みな語り口で、時にはユーモアを交えて説明されました。このからくりの原理は、現在のロボットなどにも応用され北陸の機械産業の礎となったそうです。そしてこの大野弁吉を支えたのが、豪商銭屋五兵衛ということで、記念館を訪問しました。一介の為替商から北前船業に進出、加賀百万石の台所を支えていたものの藩の内紛に巻き込まれ、悲劇的な結末を迎えたその一生は、歌舞伎などにも取り上げられています。北前船は富山でも馬場家、森家などが有名ですが、一時期それらを上回る豪商が金沢にいたことは注目すべきでしょう。



石川県銭屋五兵衛記念館

すべての目的地研修を終え小雨が降り始めた中、帰途につきました。大変密度の濃い、有意義な一日でした。

文化交流

日帰り交流会

土人形絵付けと資料館など散策を楽しみましょう！ 10月29日(土) 参加者 17名

訪問先 富山市民俗民芸村

まずは富山県人には馴染みある土人形の絵付け体験。事前に選んだ白塗りの人形を手に取り、見本を見ながらデザインを考えます。そして色を付け始めた途端に「はみ出した!」「手元が狂った!」と大声と笑い声が上がりました。それが段々と声も出ないほど真剣に取り組んで1時間あまり。招き猫や犬、来年の干支のウサギなど、色鮮やかで個性的な作品が仕上がりました。



絵付け体験の後は、五百羅漢が並んでいる坂を登り呉羽山展望台へ。晴天に恵まれて紅葉と富山市街地の景色を楽しみました。さらに民俗民芸村の民芸合掌館と売薬資料館の展示を鑑賞し、2時間余りの市内プチ旅行となりました。



ミニ門松作り体験

12月11日(日) 参加者 31名

講師 富山県フォレストリーダー

最初にリーダーの方から、呉羽山を例にとって、「里山」の森が健康であれば酸素を放出しミネラル豊富な水の恵みがあり、また野生生物も市街地に降りて来ないと説明されました。その後、ミニ門松に使う材料と実際の作り方を説明されました。太い竹を20センチ位に切って、その中に細い竹を3本まとめて入れ、周りに日本ではめでたい意味がある松、センリョウ、笹、ユズリハをあしらいます。また、クリスマスに飾ってもいいように、銀色のヒイラギの葉も加えました。



参加者は、のこぎりで竹を切るところから始めたので、文化体験だけでなく日曜大工にチャレンジするといった雰囲気になりました。特に日本の「引いて使う」のこぎりは初めての人もいて、竹を切り落としただけでも大拍手となりました。

同じ材料を使ってほぼ同じ配置で松やセンリョウを竹の中に入れていくのですが、仕上がってみれば作り手の個性が見える門松になりました。

※(公社)富山県農林水産公社「森の寺子屋」出前講座として

国際教養

英語プレゼンテーション

●9月6日(火)

What are "Role Playing Games", and how improvisation can improve your English.

Mr. Tropea Simone(イタリア出身)



●10月4日(火)

Travel in Japan
Ms. Mouricia Allen
(ジャマイカ出身)



●11月1日(火)

"Japan, A Foreign Perspective"

Mr. Daniel Boyd(米国出身)



●12月6日(火)

"Christmas in the US and New Mexico"

Ms. Alice Rees
(富山県国際交流員)



◆新規会員募集中◆

富山市民国際交流協会では、市民のみなさんが幅広く参加できる国際交流を推進するため、新規会員を募集しています。

みなさんも私たちの輪に入って、富山市の良さや国際交流の楽しさを一緒に発見しましょう!

ご入会特典

- ★協会広報誌TCA-NEWSをお送りします。
- ★各種イベントのスタッフとしてボランティア活動に参加し、外国の方と交流できます。
- ★語学講座や研修旅行、講演会に参加できます。

〈年会費〉	個人会員	3,000円
	家族会員	5,000円
	法人・団体会員	10,000円

社会に学ぶ「14歳の挑戦」～芝園中学校～

9月26日(月)から30日(金)までの活動でした。以下、班長の生徒さんからお礼のお手紙の抜粋です。



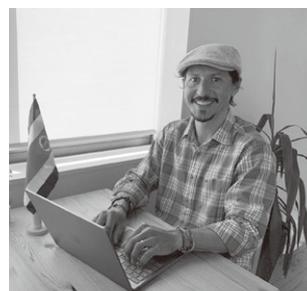
最初は、文化や習慣が違う他の国へ行くのは少し大変なのではと思っていました。けれど、いろんな国の方々の話を聞かせていただいて、文化や習慣が違うからこそ個性が生まれ面白いと思いが変わっていきました。

人と関わることで学びが増えていき、今までの自分とはまた違った考え方や感じ方をできるようになりました。この機会をいただいて視野が広がり、たくさんのことを学ぶことができました。

※11月には、堀川中学校の生徒さん2人の職場体験活動を2日間受け入れしました。

世界のことわざ ◇ コスタリカ編 ◇

とても盛り上がった2022サッカーW杯、その対戦相手だったコスタリカ。寝不足になりながらTVを見入っていた人が多いのではないのでしょうか。今回、Allan Cascante Bejaranoさんにコスタリカのことわざを紹介してもらいました。



“Árbol que nace torcido jamás su tronco endereza”

「曲がって生まれた木は、決して幹をまっすぐに伸ばすことはない」
元々の計画や着想が不十分なものは、うまくいかない。同様に、正しく教育を受けていない人は、将来、自分の習慣や欠点を変えることはできない。

“No todo lo que brilla es oro”

「輝くものすべてが金ではない」
物事や人の外見に注目すべきではない。外見上は良いものや価値があるとされるものが実際にそうであるとは限らないからである。

行事については、順次
ホームページに掲載して
いきますので、ご確認ください。
URL <https://tca-toyama.jp/>

募集中です!!

華道体験

日 時：3月5日(日)13:30～15:00
場 所：当センター会議室
参加費：300円
定 員：20名



※休館日 2月20日(月) 21日(火) 3月14日(火)

令和5年度 日本語ボランティア養成講座

令和5年4月より開講
日 時：毎月第1、第3木曜日10:30～12:00
場 所：富山市国際交流センター会議室
定 員：24名

雷鳥だより2号・3号発行しました

2号 P1 イベント/P2～3 自転車の交通ルールを知ろう/P4 紅葉について
3号 P1 季節の行事/P2～3 大雪に注意!/P4 富山の冬、おすすめスポット



2号



3号

富山に住む外国人のための情報紙「雷鳥だより」の発行も第3号になりました。初めての試みで戸惑うことも多かったものの、スタッフの努力の甲斐あって、定期的に発行できる目処が立ってきました。当地で暮らす外国籍の皆さんが富山で楽しんで暮らしていただければ一助となるようさらに努力する所存です。取り上げてほしい話題があればぜひ国際交流協会にご連絡いただければ幸いです。

11月5日(土)

講師 グエン・ティ・タオさん 富山県国際交流員

ベトナムは面積、人口が日本とほぼ同じで、南北に細長く山地が多いことなど地理的に似通った点があります。そのため北部・中部・南部では歴史、



文化、食事などが異なるとのこと。また多くの少数民族がいる多民族国家でもあります。アセアン諸国の中では経済的には後発国ですが、その後の急速な経済発展に伴い高齢化も進み、2011年には高齢化社会に入ったそうです。ベトナム語は表音文字で、アルファベットを使いますが、複雑な発音を表記するため通常の文字に皿、帽子、ひげと称する表音記号が追加されるので、参加者もその発音に苦労しながら、簡単な挨拶などを学びました。現在富山県に住む外国人の中で最も多いのがベトナム人です。勤勉な国民性と教育レベルの高さから、今後ますます発展することが期待されるベトナムと日本の橋渡し役をしたいと語るタオさんに期待しましょう。



12月17日(土)

講師 ヨフコバ四位 エレオノラさん 富山大学教養教育院教授

バルカン半島に位置し、宗教はブルガリア正教(ギリシャ正教等が属する東方教会の一派)が多数派であり、クリスマスは12月25日に祝う。

クリスマスイブは家族中心の行事で、親戚が集まる。イブの日は、7・9・11種類といった奇数で料理をだす。豆のスープ、パン、ドルマがよく食べられる。ドルマは(トルコ語で巻く・包むという意味)ブドウの葉に炒めたご飯と玉ねぎを入れたもので、通常はひき肉を入れて巻くが、クリスマスイヴには肉を食べない。イブに必ず食べるのはパンで、焼く前に願いごとを書いた紙と一つだけコインを包んだ紙とを入れて焼き、翌年の占いになる。子供はコインが入っていると大喜び。昔は、最初にそのパンを少しちぎってお供えし、亡くなった親族→年齢の順位に食すのが習慣であった。料理は朝まで片づけないで取っておく習わしがある。

クリスマスの時期になると、本物の木が売られていて好きな形の木を買って飾り、部屋を清めると考えられているクルミを部屋の四隅に置いておく。



昔は、24日の夜、子どもたちが木でできた飾りを手に持ち、ハローウィンのように近所の家を回って大人の背中をたたいて健康を祈る習慣があった。(現在は家庭で行われている。)

1月6日は“東方三賢者の日”である。冷たい川に投げ入れた教会の十字架を若い男性が飛び込んで探す行事があり、最初に見つけた人が福を掴むと信じられている。福男をめざし神社で走る日本の行事にも似ている。

※ロシア正教やセルビア正教など、ユリウス暦(旧暦)を採用しているところでは、クリスマスは1月7日。



おめでとう
ございます

令和4年度
とやま国際
草の根交流賞受賞
今井 史子さん



編集後記

皆さん、久しぶりに雪がないお正月を満喫されたでしょうか。私は今年、干支がぐるっと一巡する節目なので、神社でお祓いをしてもらいました。神主さん曰く、「今年は癸(みずのと)卯(うさぎ)年です。癸は『物事が終わり始まる』、卯は『跳ねる、伸びる』の意味がありますから、今年は良い方に進んでいきます」だそうです。皆さん、明るく前を向いて進んでいきましょう!(宍戸)

